

学校関係者評価委員会より

◎日時：平成23年6月24日（金） 10:00～12:30
◎参加者：12名【学校評議員3名、地域代表3名、PTA役員3名、学校3名】
◎議事

(1) 平成23年度の学校教育方針について（校長）

- 今年度の教育活動の中で力を入れたいと考えているのは、まずは体力づくりである。昨年度の体力運動能力テストの結果から、仙台市の平均値を下回っている項目が複数あるので自由遊びの奨励を中心に組み合わせていきたい。
次に分かる授業の実施である。授業時間の確保とともに、本校には様々な年代の職員がいるので、協力し教え合いながら授業力を高めていきたい。
- 昨年度いただいた学校評価における意見については、検討の上改善を図っている。例えば情報の発信について十分でないという意見をいただいたが、今年度学校便りを始め、地域版学校便りの発行、一斉メール配信、ブログの活用等様々な方法で行うよう努めている。本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。



(2) 平成23年度の評価活動について

① 学校評価全体計画（教頭）

- 評議員会を年間3回設定しているが、改めて日を設定していいということではなく、ご案内をすることで参観日等にご来校いただき、ご意見やご感想をいただく形とさせていただきたい。

② 協働型学校評価の重点目標（主幹教諭）

- 昨年度の保護者アンケートや学校自己評価の結果、さらには学校関係者評価委員会の話し合いより、今年度の重点目標を昨年度からの引き継ぎとして「笑顔であいさつできる児童を育てる」に設定した。

【意見交換】（☆質問事項、→回答、○意見）

- 富沢中の生徒のあいさつがよくできている。下地は小学校ではないか。長町南小の子供たちはまだもう少しかなと感じる。あいさつはやはり第一だと思う。小学校→中学校で継続することが大切。
- 顔を知っている子供は進んでするのでそれを広げていきたい。大人からの働きかけを今後もしていきたい。
- 子供が顔を覚えてくれたのか、あいさつをする子供が増えている。
- 復興プロジェクトで大人にあいさつを返してもらってうれしかったと子供が言っていた。
- 本人があいさつしているつもりでも聞こえていない場合があるのではないかと。反対に先生の方が、あいさつが返ってこないことがある。
- 腕章をつけていけば声をかけられるが、逆に腕章がなければあまりかけられないことがある。

③ 自己評価の取組

【学校自己評価（主幹教諭） ・ 保護者アンケート（教頭） ・ 児童アンケート（教頭）】

- 自己評価については、項目の見直しを図りながらも例年通りの形態で進めていきたい。
- ☆ 学校自己評価について、「宿題が学級によって違う」は「教育活動の充実」に入るのか。
→「教育活動の充実」に入る。宿題についても学級づくりの上で貴重なアイテムの一つであるので、全学級統一というわけにはいかない側面もあるが、必ず学年内での差が大きくなるようにしている。

(3) 平成23年度的主要な教育活動について（主幹教諭）

- 校内の行事等については、できるだけ当初の予定通りに行いたいと考え、変更等は極力避けている。ただし5年生の野外活動については、震災の影響による施設の破損により5月予定から9月の金、土曜日に変更となった。

- ☆ 野外活動の代休はどうなるのか。
→翌週の月曜日を代休とする予定である。

(4) その他

- 民生委員と学校の関わりがない。震災の際にボランティアをやって痛切に感じた。初めて学校に入ったという人もいた。子供が在籍しているわけではないので、学校に近寄りたいたいというイメージがある。民生委員との懇談会をもつことはできないか。
→民生委員の方からの情報をもらえると指導に役立てることができる。夏休み中に懇談会を開きたい。また、今回の震災の反省をもとに組織的な対応を作っていかなければならないと考えている。ザ・モール、ララ・ガーデンとの協力体制を含め、防災体制作りを行っていきたい。
- ☆ 地震の影響は子供たちにあるのか。
→直接というわけではないが、遠因となっている可能性はある。
- ☆ 修学旅行のグループ作りの際、仲良しグループだと仲良しを作れない子供がかわいそう。配慮してほしい。
→グループ編成を目的地別または興味関心別に行うなど、一人にならないような配慮をしているが、より細やかな配慮を心がけていきたい。